

OPTIMA Summit 2022 (for East Japan)

日時

2022年**10**月**1**日(土)
19:00 ~ 20:30

参加
方法

WEBセミナー
リンクは[こちら](#)
パスワード: **optima**



※ どなたでもご参加いただけます。(研究にご興味ある先生は是非ご視聴下さい)

Opening & Closing Remarks



OPTIMA-AF Principal Investigator
坂田 泰史 先生
大阪大学



OPTIMA-AF Co-Principal Investigator
上妻 謙 先生
帝京大学

Session 1 Special Lecture & Discussion

『AFIREにみるLess is more —サブ解析からOPTIMA-AFの意義を探る—』

Chair



森野 禎浩 先生
岩手医科大学

Speaker



阿古 潤哉 先生
北里大学

Discussion: 『超急性期OPTIMA研究の可能性について』

Discussants



中澤 学 先生
近畿大学



村松 崇 先生
藤田医科大学

Session 2 Case Discussion

Chairs



安藤 献児 先生
小倉記念病院



田邊 健吾 先生
三井記念病院



樋口 義治 先生
大阪警察病院

Case
Presenters



Case #1
長嶺 竜宏 先生
土浦協同病院



Case #2
三友 悟 先生
新東京病院



Case #3
真 優人先生
順天堂大学医学部附属
静岡病院

Discussants

田邊 康宏 先生 聖マリアンナ医科大学病院
小林 健 先生 札幌心臓血管クリニック

村田 伸弘 先生 日本大学医学部附属板橋病院

OPTIMA-AF Progress Update

外海 洋平 先生 大阪大学

OPTIMA-AF 研究について

非弁膜症性心房細動を合併する冠動脈インターベンション施行患者の経口抗凝固薬と抗血小板薬の至適併用療法:多施設、前向き、無作為化比較試験 (OPTIMA-AF研究)

研究概要

研究の目的

本研究の目的は、非弁膜症性心房細動を有する患者でXIENCE™薬剤溶出性ステントを用いたPCI後の短期抗血栓療法（抗血小板薬及び直接経口抗凝固薬の併用期間を1ヶ月で、その後、直接経口抗凝固薬のみ継続）の長期抗血栓療法（抗血小板薬及び直接経口抗凝固薬の併用期間を12ヶ月で、その後、直接経口抗凝固薬のみ継続）に対する安全性と有効性を検証することである。12ヶ月後の死亡または血栓塞栓症の複合エンドポイント（有効性主要評価項目）発生率に対する非劣性、更には非劣性が達成された場合は、出血性イベント（安全性主要評価項目）についての優越性を、多施設の前向き無作為化試験により検証する。※本研究は「特定臨床研究」です。

目標対象者数

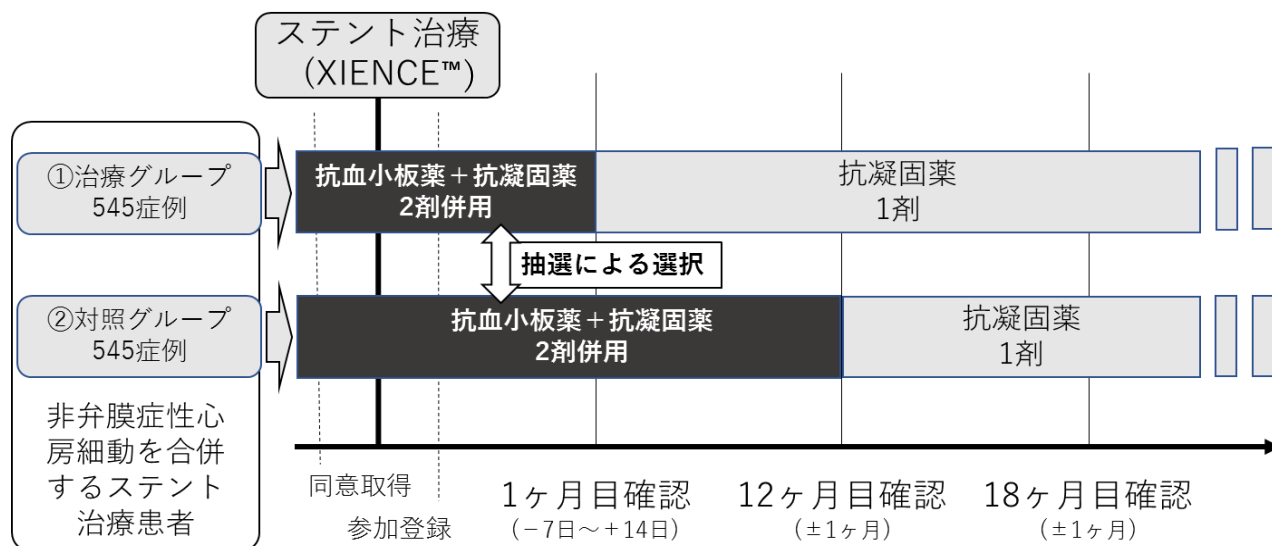
1090例 （試験群545例、対照群545例）

研究代表医師

大阪大学大学院医学系研究科 循環器内科学 教授 坂田 泰史 (Principal Investigator)

帝京大学医学部内科学講座 循環器内科 教授 上妻 謙 (Co-Principal Investigator)

研究の流れ



研究事務局

《研究参加希望など医療機関からのお問い合わせ窓口》

OPTIMA-AF研究事務局

〒173-0004 東京都板橋区板橋1-47-15-308 日本リサーチアンカー内

Email: optima-af@re-anchor.net

TEL&FAX: 03-3963-5515